

第1回 明石市財政及び公共施設のあり方に関する検討会（議事要旨）

日 時	2024年(令和6年)5月18日(土) 13:00~16:00
場 所	明石市役所本庁舎8階 806会議室
出席者	石原委員(会長)、石山委員、齊藤委員、岡平委員、河田委員、楠目委員、瀬能委員、森田委員、小田委員、増田委員
議 事	<p>【報告事項】</p> <p>(1) 白書の策定概要(目的・位置付け・盛り込む内容・検討スケジュール)</p> <p>(2) 明石市の財政状況(これまでの財政状況等)</p> <p>【審議事項】</p> <p>(3) 第3回検討会(市民参加型)の持ち方</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 資料1 ・検討会設置要綱 資料2 ・白書の策定概要 資料3 ・明石市の財政状況 資料4 ・第3回検討会(市民参加型)の持ち方(案) 資料5 ・(参考)明石市財政健全化推進計画(概要) 参考資料1 ・(参考)明石市公共施設配置適正化基本計画(概要) 参考資料2
事務局	総務局財務室財務担当、政策局SDGs共創室市民とつながる課

1 開 会

2 委嘱状交付

3 市長挨拶

- ・ 本検討会の委員をお引き受けいただいた先生方、公募をしてくださった皆さん、委員に立候補した市若手職員に心より御礼申し上げます。
- ・ 市長就任後1年が経過したが、市民との対話をどうしていけば一緒にまちづくりができるのかずっと考えてきた。行政だけでできることは限られていると感じている。産官学民みんなの力で一緒にまちづくりを進めていきたい。
- ・ 今後ますます高齢化社会が進み、社会保障関連経費の増加や公共施設の老朽化による整備費用も必要になってくる。市民の皆さんにもご理解をいただき、何を優先すべきなのか取捨選択していただく機会も出てくると思う。どのような選択をすべきなのかを考えるにあたって、まずは財政情報を市民の皆さんにしっかりとお伝えする必要がある。委員の皆さんには、忌憚のないご意見をいただき、どのような伝え方が市民の皆さんにとって分かりやすいのか知恵をいただきたい。

4 委員自己紹介

5 会長選任・挨拶

- ・ 石原俊彦委員を会長に選任

6 議事

(1) 白書の策定概要(目的・位置付け・盛り込む内容・検討スケジュール)

※事務局から資料説明(資料3)

[質疑応答]

(A委員)

- ・ 任期は2年間だが、スケジュールでは1年目で作成となっているのはなぜか。

(事務局)

- ・ 財政白書は今年度の3月までに完成させ、来年度は公共施設配置適正化計画の更新について、継続して検討いただく予定となっている。

(会長)

- ・ 公共施設は長持ちするので、しばらく何もしなくても直ちに影響が出るものではないが、長期間何もしないと後になって効いてくる。そこで、1年目はまず明石市の財布の状況をきちんと理解し、2年目には現在の子育て施策などを維持しつつ、このような問題にどう対応すべきかを考えていく必要がある。

(2) 明石市の財政状況

※事務局から資料説明(資料4)

[質疑応答]

(A委員)

- ・ 人口が増えている割に市税収入が視覚的にはあまり増えていないように見える。グラフの作りによる問題なのか、人口が増えたからといってダイレクトに市税収入が増えるわけではないからなのか。

(事務局)

- ・ 資料44ページ目のとおり、過去10年間で人口はおおよそ3%程度伸びており、市税収入も10%以上増えているので、大きい流れとして捉えれば、人口増加に伴って市税収入も増えている。ただ、企業の定年延長や景気上昇による1人あたり所得の増加による影響もあるので、一概に人口が増えたことによってその分だけ市税収入が増えるというものではない。

(会長)

- ・ 人口が増えると市税収入も増えるという考え方で基本的には良いと思う。ただし、例えば高額所得者が増えれば個人市民税は増加するが、どのような人が増えるかも影響する。また、人口が増えると、市税収入が増える一方で、必要となるお金も増加するのが難

しいところである。

(A委員)

- ・ 一般的な感覚としては、現役世代や子育て世代が移住してきているように感じる。また、地価も上がっているのも、もっと市税収入が増えている印象があった。市民の中にはそこを疑問に思う方もいると思う。

(B委員)

- ・ 人口構成の資料を追加で出していきたい。増加した人口のうち、こどもは納税義務がないので、市税収入に繋がるわけではない。人口構成を他市と比較することで、より深い議論ができると思う。

(会長)

- ・ 民間企業であれば、投資すれば将来入ってくるお金は増える可能性がある。自治体が例えば人口増加策に投資をしたとしても、民間企業のように収入が増える構造ではない。限られた財源の中でやりくりするために民間委託を増やすことも1つの方法だが、民営化が必ずしも成功するわけではない。市民みんなで知恵を出し合い、積極的に協力していただける市民の皆さんと共に、どうすればより良いまちづくりができるのか考えることも重要である。

(A委員)

- ・ 資料4が財政白書のたたき台になるということでしょうか。

(事務局)

- ・ 財政白書のたたき台というわけではなく、現在の明石市の財政状況を示した資料と考えている。この資料をもとに、どのような財政白書を作っていくのかを検討していただくことになる。

(A委員)

- ・ かなりのボリュームがある資料なので、市民参加型の検討会の時にこれを見ていきなり意見を出すというのは難しいと思う。他市の財政資料では、漫画を使ってビジュアル化していたり、ページ数を抑えたものもあった。1年という期間で作ろうとするとうようなものをゴールと設定すればよいのか。他市で財政白書を作った先生にもご意見をうかがいたい。

(C委員)

- ・ 財政白書の構成ややり方はいろいろ考えられる。資料4のように教科書的なものもあれば、そこに住む市民の方の生活実感から出てくる疑問などを検証して答えていくという手法もある。そのような方向性やコンセプトについては、今後この場で検討していくことになる。

(B委員)

- ・ 今日の事務局の説明は、一旦すべて財政情報を提供していただいたという段階だと思う。この後は、委員それぞれが市の財政を他の誰かと話すにあたって、どこがポイントになるのかを考えていくことが必要だと思う。また、資料4は財政状況を数字で表した資料だが、自治体は全く市民サービスをしなければ数字上は良くなるので、単にその数字が他市より悪いからといって問題があるというわけでもない。数字は他市より低くても見え

ないところで市の独自施策を行っていて、それが市民にとって重要なものなのであれば、それはぜひ伝えていきたい。他にも、実際に皆さんがお住まいになっている中で、どこをもっと知りたいのかなども見つけていただき、次回以降の検討会に持ち寄ってもらえればよいと思う。

(会長)

- ・ 次の議案にもなっているが、第3回検討会を市民参加型で行おうというもの。委員の皆さんから様々な意見が出たが、事務局側では市民参加型の検討会をどのように進んでいるか考えているのか。

(事務局)

- ・ 膨大な財政情報をどうコンパクトにポイントを絞って、どのような点を深掘りしていくのかという観点で進みたい。市民みんなが知りたいと思っていることを聞き、それに対して例え話を交えながらまとめていく、会話のキャッチボールができる場にしていきたい。ぜひ委員の皆さんには、3回目の検討会までに、財政情報のどこをポイントにしていくのか、どういったことを市民に聞いてみたいかを考えていただきたいと思っている。

(会長)

- ・ 委員の中にはデザイン関係、IT関係、学識経験者、大学生など様々な分野の方がいる。それぞれの方の観点から市民の皆さんにわかりやすいものをつくるにはどうすればよいかを考えていただきたい。また、事務局にも、委員の皆さんが理解できていない点については、それを説明できる機会を設けるなど協力をしてもらいたい。

(3)第3回検討会(市民参加型)の持ち方

※事務局から資料説明(資料5)

- ・ 「みんなでつくる財政白書 オープン検討会」として開催することに決定(7月28日(日)13時~15時、市役所806会議室)
- ・ 詳細は、第2回検討会において審議。

[質疑応答]

なし

7 その他(事務連絡)

8 閉会